

〔わたしと美術館〕

古美術品の撮影法 (3) 茶室と道具

美術写真家 中川 邦 昭

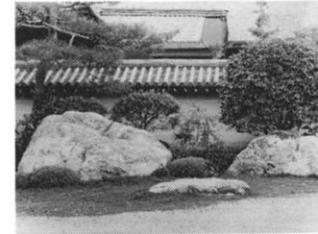
写真はいろいろな分野があり、多角的な面があります。前に平面的なものとして絵画を、立体的なものとして陶磁器をとりあげ、それぞれの撮影の問題点や工夫について指摘しました(『美のたより』No.59、60を参照)。立体的なものの中でも漆器とガラス器の撮影はそれぞれ陶磁器とは違った難しさをもっています。それについては別の機会に述べることにして、今回は平面と立体の両方を兼ね合わせた特殊な撮影について書いてみようと思います。

私は「茶の湯」に関係した撮影の仕事を生年行って来ましたので、この種の撮影を一番身近に感じております。「茶の湯」の場合はいろいろな要素が複雑に入り混じっています。茶室の床と掛物と香炉、中柱と水指など、平面的なものと同様のものが渾然—これは撮影の立場から見た場合で、実際は統一した配慮がなされています—としてあります。その状況の一部を切り取って撮影する訳です。

一般に茶室にはいくつかの窓があります。古来「八窓の席」と言われるように、多くの明取りの窓を備えた茶室もあります。また、天井に「突き上げ窓」と呼ばれる窓を併設した茶室もあり、この場合、天井からも明が入ってきます。

窓は茶室内の雰囲気をつくる重要な要素の一つであります。

まず、茶室内の採光の状態を十分に観察することが最初の仕事です。水指や釜、床飾りの道具にどの様に自然の光が当たっているかを見きわめることが大切です。ここでも、前の陶磁器の撮影のときと同じように、写真を撮る人の意図的なライティング(照明)はできるだけ避けなければなりません。茶室と道具は、それを用いてきた人人の長年の智恵と工夫から生まれたかたちです。窓から取り入れられた光はそれらのかたちに生命を与えます。要は自然の光をいかに活かすかがポイントです。撮影に当たっては、以上のような全体的な光の位置、光量を把握し、それを撮影の主光線とします。また、陰の部分があまり落ち込まないように、そこに補助光線を当てます。そして、全体としてメリハリのある調子にととのえます。実際にはこの補助的なライティングはなかなか難しく、苦心します。現在、ライティング用品が発達し過ぎて、室内や茶碗が肉眼以上に見え過ぎ、また映り過ぎるといふことが生じます。というものは、現在では商業写真が中心になり、何でも明るく撮る方がよいという風潮があるからで、また器具の方もそれに都合が



B 庭園のみの撮影

南禅寺方丈庭園(京都)

A 前景の濡縁を入れた撮影

いいように造られているからです。茶室内での撮影は商店内での商品の撮影と同じではありません。

お茶会に招かれ、出席された方ならきつと経験されたことがあると思いますが、席入りするときに、茶席が厳肅で、美しいものであることを感じられたことでしょうか。その感じは、私が未熟なせいでもあります。私がかんがうようには写真に出てくれません。茶室とその道具がつくり出す独特の雰囲気は光の影が大きく作用しているのではないかと思います。陰影がものの本質を浮かびあがらせる、つまりそのものの美を引き立たせるということではないでしょうか。光の影による省略の美しさといえます。その省略を行っているのが先に記しました窓から来る斜光線です。これは人工のライトでは代用がききません。

印画紙という平面の上に、立体的な遠近感をつけてみるというのは今までの写真の課題です。次に写真における遠近法について具体的に例を示しておくことにしましょう。

A、Bの写真(南禅寺方丈の庭)を見て、どのように思われますか。Aの写真の方が庭も広く感じられ、Bの写真の方はそうではありません。Aの下方の黒い部分(濡縁)は一見無駄な空間の様に見えます

が、そうではありません。それは上部の庭全体に広がりをもたせる空間の役目をしてしています。ここでは手前から奥へと遠近感のある写真になっています。黒いベタの単調な空間でありますから、目は自然に上部の庭の部分へ行き、そこが強調されるのです。

ただ、私が撮ってみると、この無駄な空間一実は決して無駄ではありませんが—の占める割合が大変難しく感じます。全体の四分の一であったり、三分の一であったり、しかし三分の一を超えることはありません。

ところで、茶室における遠近感とは、畳と天井が大切な要素となっています。畳を画面に入れ過ぎると、自然と上部の空間が少なくなり、圧迫感のある写真になります。また、一方、天井を入れ過ぎると間伸びした写真になり、畳と天井を等分に入れると平板な写真になります。この両者の割合は経験を積んでもなかなかつかみづらく、ケースバイケースで撮影しているのが実情です。

もし、皆様が庭や室内を撮影される機会がありましたら、今まで述べてきましたことを参考にしていただければ幸いです。

(日本写真家協会会員)

(右)大徳寺孤篷庵(京都)

(下)藪内家燕庵(京都)

